

グローバルに受容されるヒップホップ文化のローカル化の実情に関する 文化遺産学的研究 —台湾のラップ文化に注目して—

Cultural Heritage Research on the Localisation of Globalised
Hip-Hop Culture:
Focusing on Rap Culture in Taiwan

頼 上 楡
LAI SHANGYU

1. 序論

(1) 研究背景

ヒップホップは1973年にアメリカのニューヨーク市サウスブロンクスで誕生し、50年間の発展を経て全世界に広がった。当初はアフリカ系アメリカ人が中心であったが、その後多様な民族的背景を持つ人々によって発展してきた。音楽、ダンス、ファッションなど多岐にわたる分野で影響を及ぼし、国境を超えて普及している。

世界に拡大するヒップホップに関する研究では、ヒップホップが社会的疎外感と商業メディアとの関係、ブラックアイデンティティの形成、社会問題への対処方法などに焦点を当てている。ラップ音楽の商業マーケティングやミュージックビデオ制作、受容についての研究も行われている。

ヒップホップはアメリカを超えて世界に拡散し、各地域で独自の形を成している。日本では、ヒップホップが再解釈され、商品化のプロセスが分析され、人的ネットワークを通じたローカルな実践が検討されている。台湾においては、メディアがヒップホップに与える影響、歌詞の言語変換に関する研究や、特定のラッパーの歌詞分析を通じて台湾ラップ音楽の発展が分析されている。

しかしながら、台湾におけるヒップホップについて、歌詞からの分析、メディアが与える影響、伝統的な「賦(ふ、古代中国の韻文における文体の一つ)」との比較の研究が蓄積してきたが、ヒップホップ文化がどのように越境し、台湾で継承されているかの視点に立った研究はないため、その実情に関する研究は注目に値する。

(2) 研究目的

本研究の目的は、ヒップホップ文化の台湾での受容について、特にラップという文化表現に注目し、このラップ文化がどのように越境し、それぞれの地域でローカル化しながら、文化が継承されているのか、その実情を明らかにすることである。

(3) 研究方法

2023年7月24日から9月21日までの期間にオン

ラインでヒアリング調査を実施した。調査はZoomとGoogle Meetsを使用し、10名の被調査者に対して行われた。調査内容は東アジア・台湾におけるヒップホップ文化の伝播、ローカル化、グローバル化に関するものである。

被調査者は、台湾のヒップホップシーンに詳しい有識者と現役のラッパーで構成され、中国語や台湾語を母語とする創作者も含まれている。これにより、台湾のヒップホップおよびラップ文化の特色、背景、発展の過程を多角的に分析し、現地の文化や社会との交錯や継承の様子を理解することを目指している。

2. アメリカにおけるブラックカルチャーの概要

ブラックカルチャーとヒップホップの歴史を検討し、アフリカ系アメリカ人の歴史と文化表現の発展、及びヒップホップの世界的展開に焦点を当てている。アフリカ系アメリカ人の歴史は、奴隷制度の始まりから奴隷制の廃止に至るまでの重要な出来事を網羅し、この過程での社会的および政治的対立とその影響を探る。ブラックカルチャーの誕生は、音楽、ファッション、文学、芸術を通じてアフリカ系アメリカ人の経験とアイデンティティを反映している。本研究では特に音楽に焦点を当てる。ジャンル別にブラックミュージックを分析し、ブルース、ジャズ、R&B、ソウル、ファンクがヒップホップ音楽の形成にどのように寄与してきたかを明らかにする。

また、ヒップホップ文化の歴史の変遷では、DJ、MC、ブレイクダンス、グラフィティ、知識の各要素がヒップホップ文化全体にどのように形成しているかを説明し、東アジアにおけるヒップホップ文化の展開も概観する。日本、韓国、台湾などの国々において、ヒップホップがどのように受け入れられ、地域固有の文化表現として進化してきたかを探求する。

3. 台湾におけるヒップホップ文化の受容

本章では、台湾におけるヒップホップ文化の受容に焦点を当て、特に台北の西門町地区におけるヒップホップの影響、アメリカからの影響、音楽的要素、文化的背景、そして地域間の相互作用について詳述している。

台湾でのヒップホップの初期受容は、1980年代後半から1990年代にかけて、特に台北の西門町地区で目立った。この地域はアメリカのポップカルチャーの影響を受け、ヒップホップの音楽、ファッション、ダンススタイルが流行し、台湾のヒップホップ文化の基礎を築いた。西門町の「美國街（アメリカストリート）」や「臺北市電影主題公園（台北市映画公園）」は、ヒップホップ文化の視覚的な側面を象徴している。

台湾のヒップホップシーンは、アメリカと共通するバトルとコンペティションの文化を有しており、これらはヒップホップの競争的で創造的な精神を体現している。ラップバトルやブレイクダンスバトルなどのイベントは、ヒップホップ文化のグローバルな側面を反映し、台湾でも重要な役割を果たしている。音楽的要素に関して、台湾のヒップホップはアメリカからの影響を強く受けている。特に「羅百吉」のようなアーティストがアメリカのサンプリング技術を台湾に持ち込んだこと、「L. A. Boyz」の楽曲「閃！」などが、アメリカのヒップホップ音楽の特徴を反映していることを示している。

4. 台湾におけるヒップホップ文化の展開

台湾におけるラップの発展は、1980年後半、1990年代、そして2000年代以降と3派に分けることができる。1987年の庾澄慶の「報告班長」という曲が初期の台湾ラップ曲として注目される。ただし、ヒップホップ音楽の要素は限定的である。1990年代には、L. A. Boyz がデビューし、台湾語、英語、中国語を織り交ぜた歌詞で台湾ヒップホップの新たな波を生み出した。2000年代には、MC Hot-Dog と大支(Dwagie) がラッパーとして注目され、アメリカヒップホップの影響を受けつつ独自の言語背景に基づいたラップを展開した。台湾のラップ音楽は、地域ごとの文化的アイデンティティを鮮明に反映し、言語使用は地域文化への深い繋がりを示す。北部では中国語を用いた創作が一般的であり、南部では台湾語による創作が主流である。

コミュニティの形成では、台北、台中、台南の三

大地域がそれぞれ独自のスタイルを形成している。台北では O.G.C (Original Gangstaz Club) が「台大嘻研社(台湾大学ヒップホップサークル)」として結成され、言葉遊びのスキルに重点を置いた「学院派」の流派が生まれた。台中では、「台中麻煩製造者(T. T. M)」がギャングスタ・ラップの先駆けとして知られた。台南ではグラフィティのパイオニアである呂學淵が「POP Artist Shop」を開店し、スケートボード、DJ、ダンス、ラップなどのサブカルチャーが集まり「東方刺客(E. A. C)」が結成された。

地域的分化では、言語の使用や資源へのアクセスの点で、北部と南部のヒップホップコミュニティ間に顕著な違いが存在している。台南では台湾語による創作が主流であり、北部の台北では中国語を使用し、言語の遊びや歌詞の巧みさが特徴である。資源アクセスの点では、台北に集中する傾向がある地域ごとの音楽的特徴とスタイルは、その地域の社会的および文化的背景に根差している。

台湾のラップ音楽は地域ごとに異なる文化的、社会的背景に基づいたスタイルを発展させており、多様性を形成している。アーティストたちは、自身のアイデンティティや地域の特徴を表現するために、地域性を強く反映した創作を行っている。また、言語やスタイルといった要素が、ヒップホップ文化の多様性を理解する上で重要な役割を果たしている。

5. 考察

台湾におけるヒップホップ文化の展開は、グローバルなジャンルが地域固有の社会的、文化的背景と結びつき、独自のアイデンティティを築くプロセスを示している。音楽、特にラップは、台湾語、中国語、英語が混在する歌詞を通じて、台湾の多文化的社会構造を反映し、地域ごとに異なる音楽的特徴とスタイルが存在する。台湾のラップアーティストは、「真正性」を重視し、自身の経験や故郷、現在の居住地の出来事を表現する。このような文化的継承と革新の過程は、台湾のヒップホップが文化遺産としての価値を持つことを示し、地域文化の継承と発展に寄与している。

Abstract: This study examines the adoption and evolution of hip-hop culture in Taiwan, with a focus on rap. Originating in New York in 1973, hip-hop has influenced global music, dance, and fashion. The research explores how this American genre has been localized in Taiwan, adapting to its unique cultural and social contexts. It highlights regional variations in Taiwanese rap, showing diverse linguistic styles and approaches between the north and south. Emphasizing the importance of authenticity, the study reflects on rap's expression of personal experiences and local narratives. It concludes that Taiwanese hip-hop, especially rap, merges global influences with local heritage, enriching regional cultural development.